

事業評価シート（平成27年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	博物館教育普及活動推進事業		
事業担当	社会教育部 博物館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②<感性> 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託・協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
目的・目標		事業の概要	
市民の知的満足が得られています。		市民の生涯学習に役立てるため、体験学習、各種の講座、野外教育活動等を実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	行事開催回数			単位	回
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績	356	420	443		
活動指標②	指標名	テキスト作成部数			単位	部
	説明・算定式	教育活動用テキスト作成部数(印刷枚数でなく原稿数)				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績	229	306	223		
成果指標①	指標名	博物館行事参加者満足度			単位	点
	説明・算定式	5段階評価のアンケートの平均値				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績	4	4	4		
成果指標②	指標名	教育活動参加者数			単位	人
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績	8,203	8,584	9,265		
進捗状況	①：予定どおり					
	遅れている理由					
平成27年度の主な取組と成果						
平塚市博物館の活動の基幹的事業として充実を図りました。地域の歴史や自然の魅力を伝える講座や、星の見え方やセミのぬけがらなどの調査イベントなどを開催し、再任用職員を加えた学芸員増や、各学芸員の意欲的な事業展開の効果で、目標ならびに前年度の実績を大きく上回る参加者数がありました。						
平成27年度の検証結果	A：成果があがった					

項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価	
事業分析	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他 	ニーズを反映して新しい参加者層が集まりました。自ら調査研究によって良質の提供情報を生み出している点が魅力です。現住民のみならず将来に向け市の魅力を蓄積する事業で、市が率先して行う価値があります。	● 高 ○ 低
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> □ 上位施策への貢献 ■ 市民満足度を高める方策 ■ 継続による成果向上の可能性 □ その他 	平塚市民の豊かな内面の形成に貢献する事業です。見学や体験による学習に加え、調査に参加し市民共有の知的成果を形成することで、参加者は高い満足を得ることができ、また市には知的財産が蓄積されます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の目的、対象、内容 ■ 受益者負担、補助額 ■ 業務の執行体制(人員配置、業務分担) □ その他 	行事に参加した市民が、獲得した知識や技術で学芸員の業務を助けており、受益者がまた供益者となるシステムで運営されています。学芸員が分野ごとに配置されることで、事業の魅力となる専門性が担保されています。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業務プロセス改善による効率化の方策 ■ コスト削減の可能性 □ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) □ その他 	業務に市民の活力が有効活用される仕組みがあり、コストに対し最大の効果が発揮されています。プロセスの健全な運用について、検証、検討しています。	● 高 ○ 中 ○ 低
今後に向けた課題の分析 市民の関心の高い行事の企画によって大幅に参加者数が伸びましたが、一方で活動スペースには限りがあり、行事数の増加は見込めません。また、1行事当たりの参加者数の増加による参加環境の低下には留意する必要があり、行事の開催回数と参加者数を適正化する方向で行事内容を精査する必要があります。				

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 決算額
事業内容		体験学習や講座、刊行物発行等の教育活動の実施、博物館資料の保全	体験学習や講座、刊行物発行等の教育活動の実施、博物館資料の保全	体験学習や講座、刊行物発行等の教育活動の実施、博物館資料の保全
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	787	715	759
	一般財源	39,008	42,594	35,047
事業費 (A)		39,795	43,309	35,806
執行率 (%)		98.77	99.44	98.23

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成29年度の取組方針 教育と調査収集が一体となった事業システムを継続して、資料と情報の蓄積を進めます。学芸員の世代交代に対応し、市民参加の間口と興行きのバランスに配慮しつつ、事業の新展開を図ります。
課長コメント 教育普及と調査研究が一体となった活動形態が、市民の学習意欲という推進力を得て順調に機能しています。学芸員の世代交代は、効率性への影響を想定していますが、むしろ有効な新展開への契機になると考えます。